

5G時代の到来で「VR」がいよいよ身近な娯楽に？

## 「VR MODE」まもなくローンチ 新次元のエンタメ体験をもたらす未来

VRコンテンツの制作、配信事業を担うため、エムアップの連結子会社として2018年に設立されたVR MODE。現在は、本格運用開始を目前に、文字通り最終チェックの段階。果たしてキックオフ用のコンテンツ群とはどのようなものになるのか。代表取締役の樋口愛史氏に新サービスの概要や展望を聞いた。

### VRライブ配信を軸に、 VR写真集やVRシナリオ動画も配信

VR関連ビジネスが急速に普及すると期待された2016年から約4年。映像制作にかかるコストとその回収率の低さ、専用端末の普及が進まない状況などもあり、これまではビジネスモデル構築が困難だった。

「5Gのスタートにより、これからが本格的なVR普及の時代になっていくと考えています。端末とネットワークインフラの普及も数年がかりになっていくと予想されますが、そこに歩調を合わせて市場を拡大していけるよう、今からプラットフォームを用意しておく。特に音楽系のライブ配信を含め、VRならではの新鮮な体験ができるサービスを提供していきます」（樋口愛史氏／以下同）

VR MODE設立は18年。19年より、実際にライブやイベントをVR用機材で撮影しつつ、サービスをどのような形で提供するのか、販売方法を含めた具体的な内容を検証するトライ＆エラーを続けていたという。「たとえば複数のカメラで撮影した映像をつなげるとどう感じるか。ライブハウスなどで収録したテスト映像をお客様に体験してもらい、意見をリサーチするといった作業です。結果、最前列のワンカメ、180° 3D立体視映像での反応が突出して良好でした。およそ2000名キャパの会場規模までなら、ステージの端から端までワンカメでしっかり撮れる。それ以上のキャパシティの会場だと、花道とメインステージのカメラを曲

によって切り替えるなどの手法が効果的。そうした多くの知見を、時間をかけて蓄積してきました」

ローンチ時点では、VRライブ配信とそのアーカイブ化という軸に加え、10秒ほどの映像を40～50シーンつないで構成する「VR写真集」や、シチュエーションムービー的な「VRシナリオ動画」などを常設コンテンツとしてラインアップする予定。アプリをDLし、そこから各コンテンツを購入／レンタルする仕様で、VRの専用機器がなくても手持ちのスマホで視聴可能な2Dモードも選択可能となっている。

### VRが既存収益にプラスされる、 新たな収益源になる

ファンクラブ（FC）事業を大きな柱として継続しているエムアップ（※注）のグループ企業であることも、同社の強力な武器となる。

「FCにお客様が集まる最大の理由はライブやイベントのチケットの先行入手。そこにもうひとつ、新たな付加価値をプラスするという意味合いもあります。先行視聴できるとか、価格面で一般と差別化するといった施策も可能ですので、さらなる会員獲得にも寄与できるはず。エムアップ傘下のサービスであれば、共通IDを使って認証し、すぐログインできる仕様となっており、電子チケットとの連携も視野に開発を進めてきました。また、他社さんが運営するFCとのつなぎ込みの仕組みもすでに開発しており、VRコンテンツの拡充と早期の市場形成のためにも積極的に

お話ができればと考えています」

基本的にライブ配信は映画館配信に準じ、1本2000～3000円程度での販売を予定。アーカイブ映像の場合、ストリーミングでのレンタル料金は視聴期間＋尺によって決定する。VR写真集は600～800円程度のレンタル料金と、その3倍目安の買い切り価格を用意していく。

「コンテンツホルダーさんにとってはVRが既存収益にプラスされる、新たな収益源になると捉えていただければ。お客様にとっては本会場やサテライト会場に行けない場合にも役立ちますし、写真集やシナリオ動画は、新たなエンタメフォーマットとして楽しんでもらえると確信しています。特に、臨場感・没入感では別次元の体験をしていただけるはず」

5G環境が整っていけば、低遅延性を活用し、投げ銭機能を備えた双方向ライブVRコンテンツも実装していきたいとのこと。当初、4月に開催される大規模イベントでサービスをお披露目する予定が、新型コロナウイルスの影響もあり、若干のタイムラグが発生している。ローンチ後は、そうしたライブ会場での販促を兼ねたVR体験会と生配信、ストリーミングコンテンツ販売を続けていく。



樋口愛史氏  
VR MODE  
代表取締役

※注釈 4月1日より「株式会社エムアップホールディングス」へ商号を変更  
ファンクラブ（FC）事業は「株式会社 Fanplus」へと商号変更し事業展開